

「親孝行の姿」

文学部 日本語日本文学科

梅津 拓也

10月20日 読売新聞朝刊

親孝行の「代行」というものがあるらしい。何でもビジネスにするものだなあと考えていたら、なんとシルバー人材センターでも同様のサービスを行っているとか。

サービスを行っている企業の社長は「親孝行の新たな形になるといい」とコメント。さらに海外勤務をしている利用者の声が載せられていた。海外在住ならば親孝行は容易ではない。声を聞かせるだけでも、国際電話をかけること自体難しいであろうし、時差も考慮するとなるとなおさら大変だろう。なるほど良いサービスだ。

しかし見出しを見てまず思ったことは「親孝行の代行とはこれ如何に」。親を思う心が伝わればどんなやり方も良いと思うが、やはり本人が直接するのが良いのではないか。そこに意味があるのではないか。まして「面倒」な親孝行を買うという発想では全く意味がない。

記事には親の声が載せられていなかったが、どのように感じているのだろうか。私の親はどのような形の親孝行を望むだろう。

くおか情報

親孝行「代行」が人気

掃除・洗濯から「終活」まで

親孝行を代行します……。離れて暮らす親の世話をする「親孝行サービス事業」が人気を集めている。掃除や洗濯といった日常生活や健康相談、人生の後半をより良いものにする「終活」と内容は幅広く、海外駐在のビジネスマンからの依頼も増えている。県内7市町のシルバー人材センターも、こうした事業に乗り出した。

海外駐在員から依頼も



親の安否確認や掃除などを代行する「親孝行110番」

保険業務を手がける企業のグループ会社「快活ライフ」(福岡市、中村龍彦社長)は今夏から、「親孝行110番」と名付けたサービスを開始した。子や孫が契約者となり、親や祖父母の世話を依頼。家の清掃をはじめ、医療や保険、終活の相談など様々なサービスを提供している。親や祖父母の元には、ハウスクリーニングや家事代行のチケットなどが入ったギフトボックスが届く。年中無休24時間対応のコールセンターを設け、急なトラブルにも対処している。

フィリピン在住の会社員、高橋広幸さん(44)は、日本で暮らす祖母(90)のために契約した。「忙しくてなかなか電話もできず、オ

レオレ詐欺の被害に遭わなにか心配だった。今はセンターが祖母と連絡を取って安否を確認し、近況も教えてくれるので安心」と話す。サービスの申し込みは、同社が運営する終活相談カフェ「茶庵はかた珈琲」(福岡市博多区)などでも受け付けている。契約は既に1

00件を超え、中村社長は「親孝行の新たな形になる」といいと語る。

◇ シルバー人材センターによる代行サービスは今年から始まった。手がけるのは北九州、大牟田、豊前、宮若市など7市町の5センター。県などが進める「70歳

現役社会」づくりの一環で、来春までに40市町村の30センターを開始するという。

県シルバー人材センター連合会は「年齢の近い人がサービスを行うため、話も合うはず」として、利用を呼びかけている。問い合わせは同連合会(092・623・5656)へ。

2014年10月20日

読売新聞朝刊